

冤罪の時代 再び

— 無罪の鹿児島県議に聞く



「中山さんが無罪になったら渡してほしい」と捜査員が置いていった書には「真実で固めた意志は崩れない」とある。中山さんは「冤罪を確信していた警察官もいたのです」と話す。鹿児島県志布志市で

戦後混乱期のむちゃな捜査で罪を着せられた被告たちは無罪確定まで長年、苦しみ、青春を捧げた。そして今、再び「冤罪の時代」。白鳥麗の弊害は明らかたとして、取り調べ可視化(ビデオ録画や録音)を求める声が強まっている。

屈辱の395日「まさにご人質」

「これだけの警察、検察、裁判官の仕組みの中でチェック機能がゼロ。びびりました。八百の統一地方選で鹿児島県議選に返り咲いた会社役員中山信一さん(70)志布志市。は怒りに満ちた表情で悪夢を振り返る。

二〇〇三年四月の統一選で初当選した中山さんの喜びもつかの間、有権者に金品を配った公職選挙法違反容疑で、翌日から運動員らが事務所取られ次々に逮捕された。警察が親族名を踏み字で「白鳥」を迫られた男性(70)も。

本命の中山さん方には十人ほどの捜査員が訪れたのは六月四日早朝。任意聴取がないまま事件とともに逮捕。「取調官は事件のことは一つも聴かない。机を叩き「責任を認めろ」「買収の相手は認めている」と繰り返し返す。「有罪は確実」と会社もつぶれる。裁判も三、四年かかる」「議員報

「警察から謝罪ありません」

酬で食っている給料泥棒」見て理解してくれたと思われたい。(中山さん)

過酷な調べで六人が「白鳥」。中山さんは議会に出して出した白鳥調書会席でできない責任から議員辞職した。中山さんは議会に出して出した白鳥調書会席でできない責任から議員辞職した。「ないことだから、家に入れていた不自然さを指内が認めたと言われたとき。詳細さが行き過ぎ、だけはショックだったが、逆に信用性を否定する」と弁論士に聞いたら嘘だった。

調書は実に三百九十五日。「認めれば出られる」と再三言われた。本しい判決に、検察は検断当、人質ですよ。悔しさ、念に追い込まれた。

来たまま翌年の県議補選に今白鳥を証明して出された。中山さんが保釈されたが体面は八、落ちていた。体調不良での選挙戦。落選した。

法廷では被告十三人(一人は公判中に死亡)全員が無罪を主張し「認めない」「有権者も無罪と認めてと地獄に行くぞ」「選挙違反は交通違反と同じだから」と言われた。など証言。調書への夢を見ることも多

言。今年二月、中山さんから、よく眠れないが、警察十二人に言い渡された判決は「全員無罪」。「ほっと」と、まじめな警察官がかわいそうだ。無罪になっただけでは済まない。眼裏に情報提供したのは誰なのか、原因を追及し、二度とこういう事件が起きないようにしたい。県議会で問題提起に加え、国家賠償訴訟も起すつもりだ。

も起すつもりだ。

